

「退院支援チーム」誕生に寄せて

米田病院・よねだクリニックは、それぞれ整形外科の診療に特化した医療機関です。

厚生労働省は、2025年を目標にして、地域と医療と介護の一体での改革を進めています。その中でとくに急性期医療と言われる、手術・多量の薬剤などを基盤とした **intensive treatment**（短期強化治療）をする急性期病院と、急性期を過ぎてリハビリなどを中心とした治療をする慢性期病院・医院とを分けていこうとしています。今もそうですが、急性期病院での治療がひとまず落ち着くと、その後は慢性期の病院・医院か介護施設に転院するか自宅に退院することになりますが、当然リハビリも十分進んでいなくても、急性期病院での一定の在院期間（現在は看護基準7対1の病院では平均2週間以内、将来もっと短縮の見込み）が過ぎると退院することになります。つまり、リハビリも進んでいない患者さんが病院を替わるか退院をすることになる訳です。多くの患者さんにとっては大変困ったことですが、この流れがますます加速していくのが日本の医療の世界では強力に進められ、いわゆる「リハビリ難民」も増えてきています。当院は手術など急性期の治療から、退院後のリハビリまで一貫して行う、**care mix**（ケア・ミックス）に分類されることになります。

当院では整形外科の手術から通院リハビリまでを一連として提供することでリハビリ難民を減少させる役割が担えることが特徴です。当院で整形外科手術などの急性期治療（病院）から退院後の通院リハビリ（よねだクリニック）をシームレスに行う事ができ、急性期を担っている他院からも、急性期を過ぎてまだ入院のリハビリが必要な患者さんにも充実した運動器リハビリを提供できます。当然治療成績もよく、退院後の自宅復帰率は90%以上で、これは通常の整形外科の60%台を大きく抜く水準です。そうした中で、退院後の生活についてしっかり準備をしてもらったり、どうしても自宅復帰することが出来ない患者さんには、その後の生活の面倒をみてもらえるよい介護施設に行ってもらうことも重要です。

当院では、今までも病棟看護師とリハビリスタッフとの協力関係で、この流れは他院に比べ良好に進めて頂いてきたと思っています。しかし、これからの時代に、さらに退院後の患者さんにとってよい支援ができる様にしていくことは、病院にとっても最重要課題だと思います。

「退院支援チーム」の誕生、本当に嬉しく思っています。

今後の活躍に期待します。

米田病院院長 米田 實